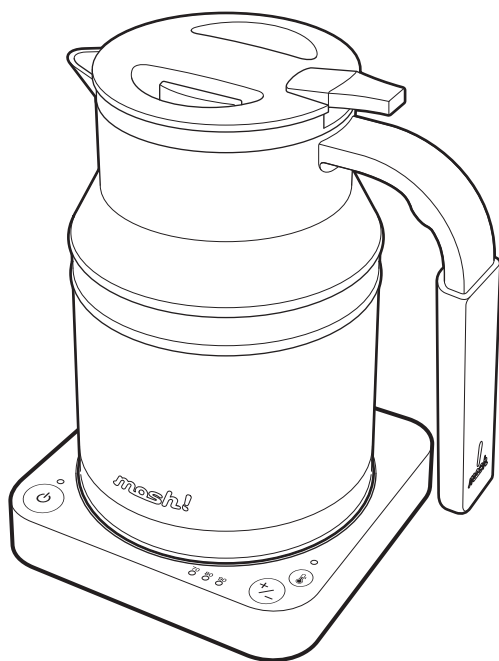


mosh!

電気ケトル M-EK1

取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保存してください。



も く じ

安全上のご注意	P1～P2
各部の名称とはたらき	 P3
正しい使いかた	P4～P7
お手入れと保存	P8～P9
修理・サービスを依頼する前に	 P10
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙

仕 様

品 名	電気ケトル		
型 名	M-EK1		
電 源	AC100V 50/60Hz		
定格消費電力	1000W		
定格容量	0.8L (リットル)		
保温機能	保温時間：1時間 (沸騰100℃は除く)		
電源コード長さ	約0.75m		
外形寸法	約幅 18 ×奥行き 19 ×高さ 23 cm (電源ベース含む)		
質 量	約910g (電源ベース含む)	生 産 国	中国

- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 指示	定格15A以上のコンセントを単独で使う。 他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。	 プラグを抜く	使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になることがあります。
	ケトル本体や電源ベース部のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシヤお客様相談室(裏表紙参照)にご相談ください。
 使用禁止	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用しない。 火災・感電の原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
 指示	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。	 水ぬれ禁止	ケトル本体や電源ベースを水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 感電・ショートの原因になります。

警告

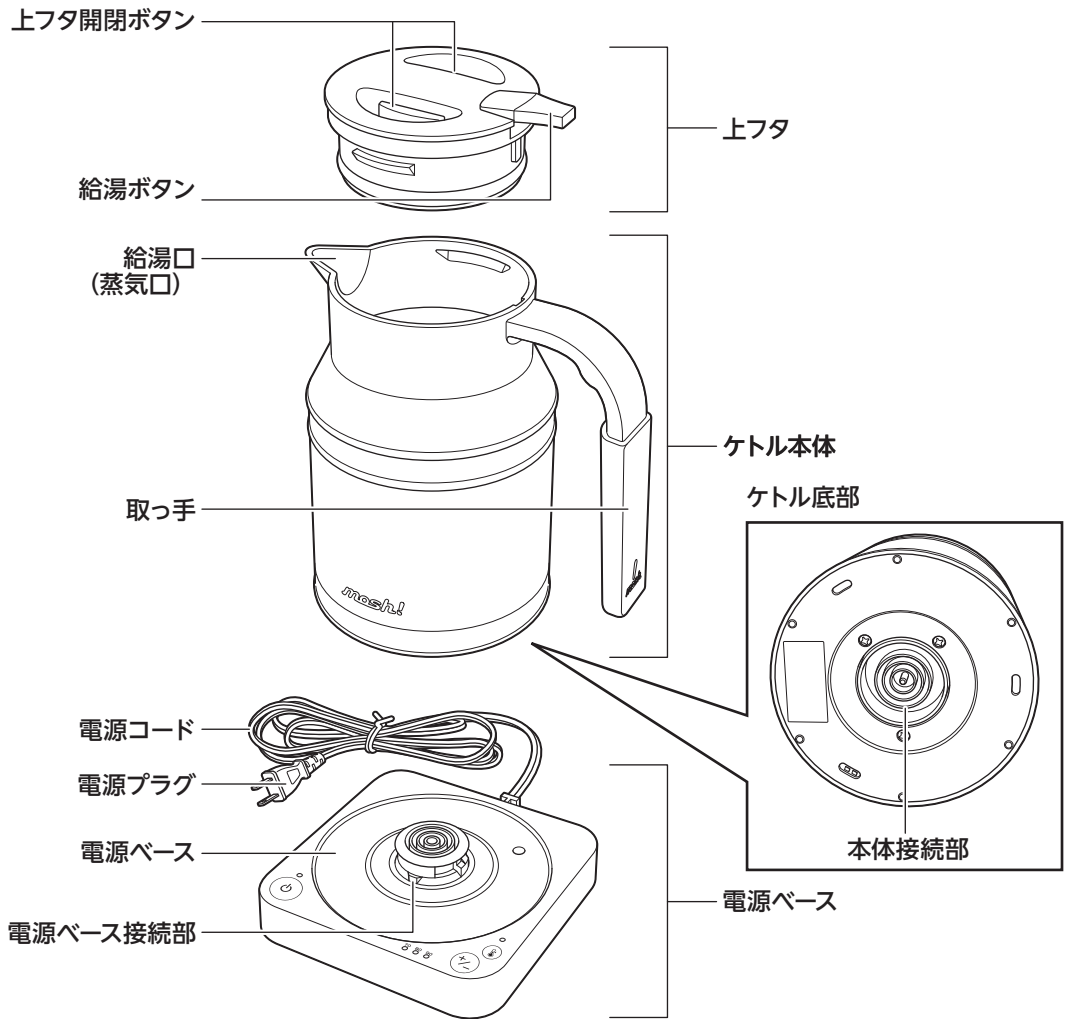
 禁止	ケトル本体を直接火にかけない。 火災の原因になります。	 禁止	カーテンなどの可燃物の近くで使わない。 火災の原因になります。
--	--------------------------------	---	------------------------------------

注意

 指示	電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になることがあります。		沸騰直後は上フタを開けない。 ふきこぼれ・やけどの原因になります。
 禁止	お手入れや持ち運び、保存は、ケトル本体が冷めてから行なう。 火災・やけどの原因になることがあります。	 禁止	沸騰後は給湯口側以外にケトル本体を傾けたり、ゆすったりしない。 湯が流れ出て、やけどの原因になります。
	壁や家具の近くで使わない。 蒸気や熱で壁や家具が変形・変色したり、火災の原因になることがあります。		沸騰した後、すぐにお湯を注がない。 湯が飛び散り、やけどの原因になることがあります。
	空だきしない。 火災の原因になることがあります。		ケトル本体を転倒させない。 やけど・けがの原因になることがあります。
	使用中にケトル本体を回さない。 湯が飛び散り、やけどの原因になることがあります。		専用の電源ベース以外は使わない。 電源ベースはほかの機器に使用しない
	ケトル本体を持ち運ぶときは、上フタを持たない。 上フタが開き、やけどの原因になります。		屋外で使用しない。 本製品は屋内専用です。
	本製品は、湯沸かし専用として使用し、ほかの目的に使用しない。 火災・故障の原因になります。		不安定な場所や熱に弱い敷物の上で使わない。 けが・火災の原因になることがあります。
	水以外の物(お茶の葉、コーヒー、スープ、レトルト食品など)を入れない。 ふきだしたり、焦げつき・腐食の原因になることがあります。	 接触禁止	熱源の近くで使用しない。 火災・故障の原因になります。
	氷を入れて保冷用に使わない。 結露が生じ、感電・故障の原因になります。		上フタを開けるときの出る蒸気に触れない。 やけどの原因になります。
	満水表示「MAX」以上に水を入れない。 ふきこぼれ・やけどの原因になります。		使用中や使用後しばらくは、高温部に触れない。 やけどの原因になります。
	給湯口(蒸気口)をふきなどでふさがない。 ふきこぼれ・やけどの原因になります。		

各部の名称とはたらき

- 本製品はケトル本体と電源ベースの分離式になっております。
- 空だきすると、安全装置が作動します。



**ケトル本体には必ず付属の電源ベース
をご使用ください。**



警告

付属以外の電源ベースを使用しない。
火災や故障の原因になります。

梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

ケトル本体	1個	電源ベース	1個
上フタ	1個	取扱説明書 (保証書含む)	1部

正しい使いかた

●この製品は、家庭用です。業務用または一般のご家庭以外でご使用、使用目的以外でご使用になられても弊社は製造責任、保証など一切のその責任を負いかねます。

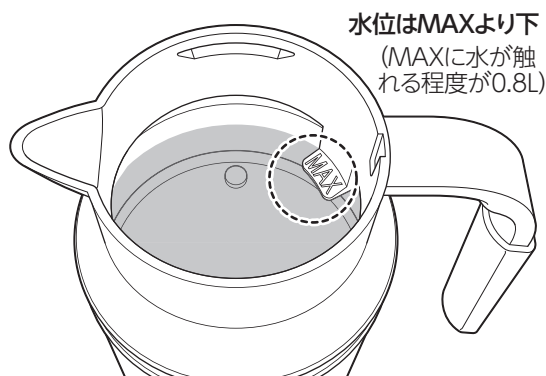
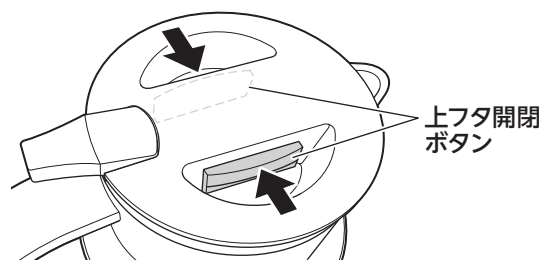
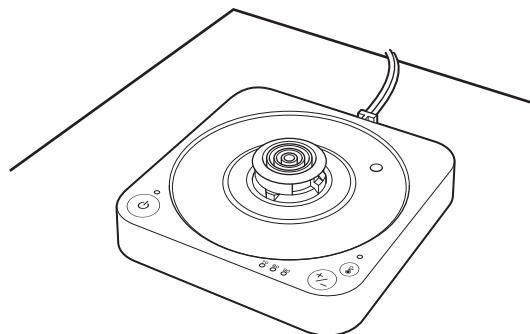
使用前の準備

1. 電源ベースを安定した水平な場所に設置する
2. 上フタ開閉ボタンを2つ同時に押し、上フタを取りはずして水を入れる

初めてご使用になるとき、または、しばらくご使用になれなかった場合

一度水位目盛り「MAX」0.8Lで水を沸かして、そのお湯を給湯口（蒸気口）から捨ててから、ご使用を開始してください。

上フタ開閉ボタンを2つ同時に押し込むと、ロックがはずれて開くことができるようになりますので、そのまま上フタを上方向に取りはずしてください。



- 電源ベースおよびケトル本体の底面を水に濡らさないようにしてください。
- 水を最大水位0.8Lを超えて入れないでください。
熱湯が吹き出る恐れがあります。
- 水以外の物（お茶の葉、コーヒー、スープ、レトルト食品など）を入れたり、空だきしないでください。

3. 上フタを取り付け、電源ベースの上に設置する

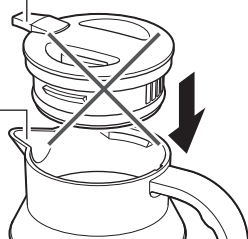
本体の取っ手と上フタの給湯ボタンの位置を合わせて上フタを取り付けてください。



上フタが正しく閉まっていることを確認してください。

給湯ボタン (悪い例)

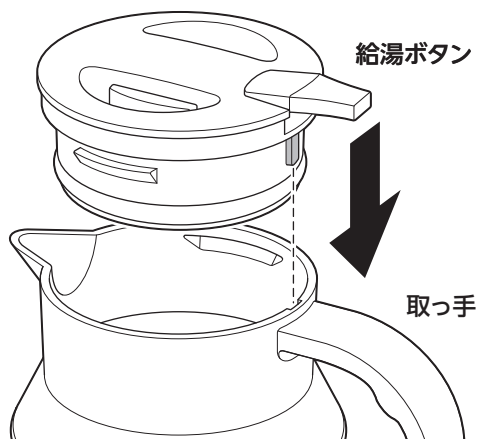
給湯口
(蒸気口)



※取り付けるとき、給湯ボタンと給湯口が同じ方向で取り付けないようにしてください。

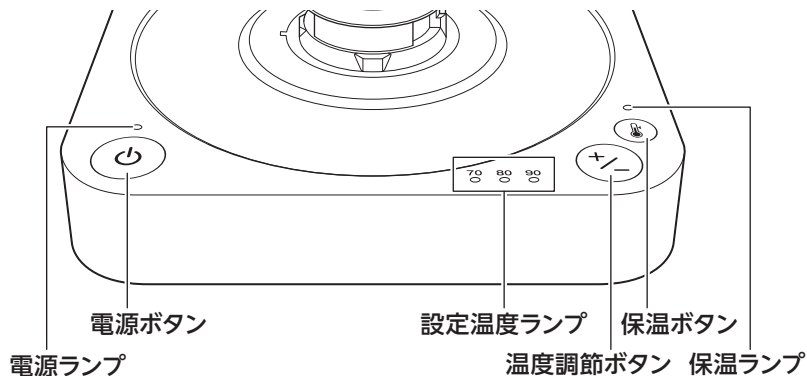
4. 電源プラグをコンセントに差し込む

通電したとき、1秒間、電源ベースのランプが全て点灯（1秒後消灯）、同時に0.5秒間電子音が鳴ります。



正しい使いかた (つづき)

操作部



お湯を沸かす／再沸騰させる



警告

湯を沸かしている時は、上フタをあけたり
給湯口（蒸気口）に手や体を近づけたりし
ない。
やけどの原因になります。

1. ①電源ボタンを押す

- ・上フタがしっかり閉まっていることを確認してください。
- ・①電源ボタンを押すと電源ランプが点滅して、加熱が始まります。

2. 沸騰すると電子音が2回鳴り、加熱終了となり、電源ランプが消える

沸騰するまで加熱を続けます。



警告

給湯口（蒸気口）からの蒸気に注意する。

※ 高地や寒冷地など特定の地域で使用する
場合、所定の性能を確保できないことがあります。

3. 再沸騰させるときは、再度、①電源ボタンを押す

※ 電子音を消すには、①電源ボタンと②温度調
節ボタンを同時に2秒長押しします。
もう一度①電源ボタンと②温度調節ボタンを
同時に2秒長押しすると、消音を解除できます。
また電源プラグをコンセントから抜いても、消
音を解除できます。

4. 電源を切るときは、①電源ボタンを2秒以上押す



警告

使用後は、電源プラグをコンセントから抜く。
火災・故障の原因になります。

温度を設定してお湯を沸かす／お湯を設定した温度にする

⚠ 警告	湯を沸かしている時は、上フタをあけたり、給湯口（蒸気口）に手や体を近づけたりしない。 やけどの原因になります。
-------------	--

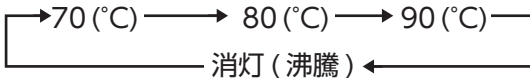
1. ①電源ボタンを押す

上フタがしっかり閉まっていることを確認します。

2. ②温度調節ボタンを押して、温度の設定をする（3段階と沸騰）

⚠ 警告	給湯口（蒸気口）からの蒸気に注意する。
-------------	---------------------

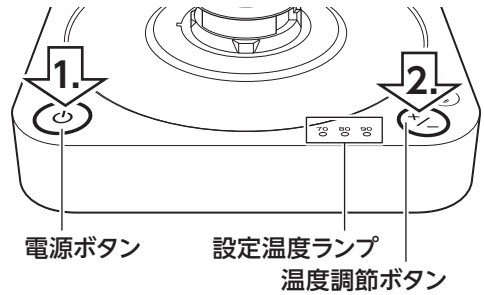
②温度調節ボタンを押すと、ランプが70点灯→80点灯→90点灯→消灯の順に切り替わります。



・消灯にすると沸騰まで加熱します。

3. 選んだ温度に到達した時点で電子音が2回鳴り、加熱終了し電源ランプが消灯する

・②温度調節ボタンを押して温度を設定したときに、加熱せず、消灯してしまう場合は設定温度より高い温度のお湯が入っています。時間を置いてさますか、中のお湯を捨てて水を入れてから、ケトル本体を電源ベースの上に設置して、手順1からやり直してください。



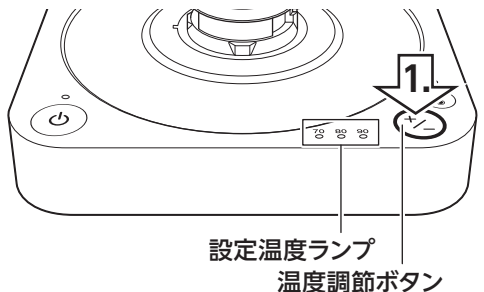
保温

1. ①電源ボタンを押し②温度調節ボタンを押して、保温したい温度を選択する

①電源ボタンが点灯し選んだ温度のランプが点滅します。

・現在の湯の温度より低い温度設定をした場合は、電源が切れます。

※ 自動で再加熱して温度を一定に保ちます。



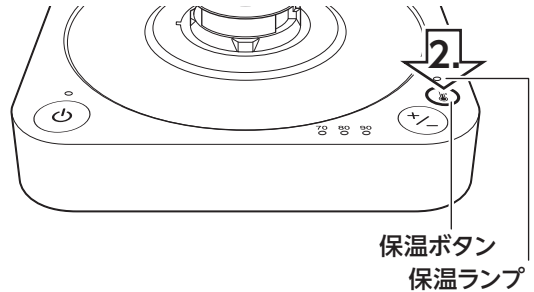
正しい使いかた (つづき)

2. ④保温ボタンを押すと保温のLEDが点灯し電子音が鳴る

- 温度が下がったら加熱し設定温度を保ちます。
加熱中は、設定した温度のLEDが点滅し、加熱が終わると点灯にかわります。
- 保温時間は約1時間です。
④保温ボタンを押してから約1時間経過すると電源が切れます。
- 保温は加熱中でも設定することができます。
- 本体内部の湯の温度より低い温度に設定するとそのLEDが点滅します。
下がるのを待つか、沸かし直してください。

※ 沸騰モードで使用中に（温度調節LED不点灯の時）、④保温ボタンを押すと、電子音エラー音が鳴ります。

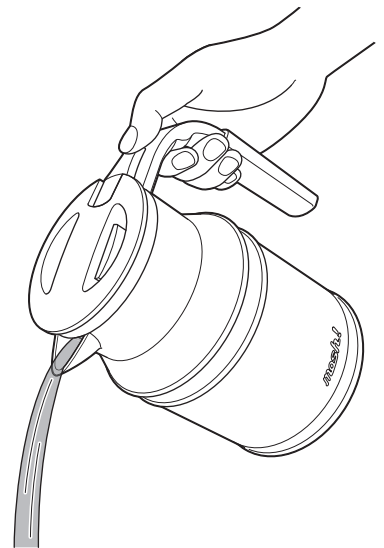
※ 加熱・保温をやめる時は2秒以上⑤電源ボタンを押してください。



お湯が沸いたら

1. 給湯ボタンを押してお湯を注ぐ

ケトル本体を電源ベースからはずし、給湯ボタンを押しながら、ゆっくりとお湯を注いでください。
電源ベースから本体を持ち上げても、本体を電源ベースに戻すと、保温を再開します。
本体を電源ベースから持ち上げると保温LEDは点灯したままです。



2. 電源プラグをコンセントから抜く

	警告 使用後は電源プラグをコンセントから抜く。 火災や故障の原因になります。
	注意 • 空だきしない。 空だき防止の安全装置を搭載していますが、空だきをすると内部が変色する場合があります。 • 電源ベースにケトル本体を設置した状態で上フタを開けない。 ふきこぼれ、やけどや転倒してお湯などがこぼれる原因となります。

お手入れと保存



警告

お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、ケトル本体が冷めたことを確認する。
感電やけが、やけどの原因になります。

日常のお手入れ

- 残った水は上フタを開けて捨ててください。
- 上フタおよび取っ手などに残った水はよくふきとってから乾かしてください。

お願い

住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。



警告

ケトル本体や電源ベースに水につけたり、
水をかけたりしない。
感電・ショートの原因になります。

上フタ・ケトル本体外側・電源ベース

ぬるま湯か食器用中性洗剤(柑橘系を除く)に浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください。(ケトル本体外側、電源ベース部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります。また、電源ベースを水にぬらさないでください。感電・故障の原因になります。)

ケトル本体内側

水またはぬるま湯で洗った後、水でよくすすいでください。

ケトルの内側をこすったりせずクエン酸洗浄を行い、よくすすいでからご使用ください。

ケトル本体内側の汚れは、水に含まれるミネラル成分の作用によるもので衛生上問題ありません。

本体の内側や底の汚れが目立ってきたら

クエン酸を使用してお手入れしてください。

- ① 水を0.8L (MAX) まで入れ、その中にクエン酸(40g程度)を入れてかき混ぜます。
- ② 上フタを閉めて沸騰させます。
- ③ 約1時間放置します。
- ④ お湯を捨て、水で十分にすすぎます。
(クエン酸のにおいが気になる場合は、水を入れて後に、沸騰させてからお湯を捨ててください。)

お手入れと保存 (つづき)

上フタパッキンのお手入れ

上フタパッキンの取りはずし

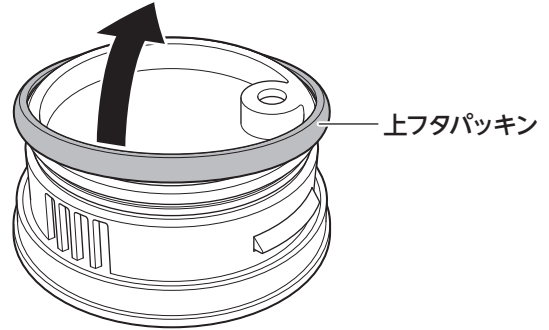
上フタをはずし、上フタの外周にはめ込んである上フタパッキンを取りはずします。

上フタパッキンの取り付け

上フタパッキンを取り付ける方向を確認します。
取り付ける方向を確認したら、上フタの取り付ける外周に上フタパッキンの「みぞ」を合わせて、上フター周、しっかりとめ込んでください。

上フタパッキンの取り付け確認

取り付けが終わったら、すき間がないか、上フタの外周でずれているところはないか、ちゃんと上フタが閉まるか、確認してください。上フタパッキンを取りはずし・取り付けを行なった後に蒸気がもれたりする場合、もう一度上記をよくお読みになって取り付けなおしてみてください。



注意

上フタパッキンはずしたまま使用しない
やけど、けが、故障の原因になります。

プラスチックのにおいについて

一般的にプラスチックが熱で温められるとプラスチック特有のにおいがする場合があります。

保存のしかた

- お手入れのあと、よく乾燥させてください。
- ポリ袋などをかぶせ、お買い上げの商品が入っていた箱に入れて、湿気のない場所に保存してください。

修理・サービスを依頼する前に



警告 修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
温まらない(電源が入らない)	・電源プラグが抜けている	電源プラグをコンセントに差し込んでください
	・ケトル本体が電源ベースにはまっていない	ケトル本体を電源ベースにしっかりはめ込んでください
	・水がなくなり空だきの状態になって、安全装置が作動している	水を入れてケトル本体を冷ましてください
沸騰中にお湯が漏れ出る	・水が0.8Lを超えて入れている	最大水位である0.8Lより多く水を入れると、沸騰したときに溢れ、漏れ出てしまいます。水は0.8L以下にしてください
	・上フタパッキンがきっちりとはめ込まれていない	みぞに合わせてきっちりとはめ込んでください
お湯が出ない	・水が入っていない(空だし)	水を入れて沸かしてください
沸騰が止まらない	・上蓋が閉まっていない	上蓋をしっかりと閉めてください
保温しない	・保温時間が1時間を超えている	保温は約1時間までです
保温ランプが点灯しない	・温度設定をしていない	温度設定をしてください
保温温度が勝手に切り替わっている	・  温度調節ボタンに誤って触れた	正しい保温温度で再度保温してください
設定した温度で加熱できない	・設定温度より高い水温のお湯が入っている	中のお湯を捨てて水を入れかえてください
本体の中が白く汚れている	・水に含まれるカルシウムなどのミネラル成分の作用によるもので、本体内部の変色や腐食によるものではありません	クエン酸洗浄を行ってください

長年ご使用の電気ケトルはよく点検を

このような症状はありませんか?

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。

このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャお客様相談室に点検をご相談ください。